

第 193 回新潟循環器談話会

日 時 平成 4 年 12 月 12 日 (土)
午後 3 時より
会 場 新潟大学医学部大講義室

2) 大動脈炎症候群の頸動脈エコー所見

島野 達郎・政二 文明 (桑名病院 循環器内科)
林 千治 (新潟大学 公衆衛生学教室)

患者は 40 才女性。労作時の胸痛のため来院。頸動脈に沿った圧痛と、両側頸動脈の雑音、上肢の血圧の著明な低下を認めた。炎症所見陽性にて大動脈炎症候群と診断された。ステロイド投与により約 3 週間で炎症所見、頸部痛、胸痛は改善した。入院 1 カ月後の心カテーテル検査では 2 度の大動脈弁閉鎖不全、左冠動脈起始部に 90% の狭窄を認め、頭頸部の血管造影では両側の鎖骨下動脈、総頸動脈、左椎骨動脈の高度狭窄ないし閉塞を認めた。ステロイド投与前後にわたり経時的に 7.5 MHz プローブを用いて頸動脈の断層エコー像およびカラードプラー像の観察を行った。両側頸動脈の血管壁は頸部全体に渡って慢性かつ比較的均一に肥厚し、動脈硬化症とは容易に区別された。ステロイド投与により壁の性状、血流ともに明らかな変化はみられなかった。頸動脈エコー法が頸動脈において大動脈炎症候群の診断に有用である可能性が示唆された。

I. 一 般 演 題

1) シネ MRI による大動脈弁狭窄症の評価

木村 元政・樋口 健史
加村 毅・酒井 邦夫 (新潟大学放射線科)
林 純一 (同 第二外科)

大動脈弁狭窄症の画像診断法の一つとして、血管心造影を用いた特殊な撮影法で aortic orifice projection というものがあり、大動脈弁を正面視することにより各々の弁尖の可動性を評価することに用いられてきた。今回任意の断面で撮像できる MRI の特徴を生かし、シネモード撮像法を用いて各大動脈弁を正面視する方法を開発し、大動脈弁狭窄症の評価を試みた。

【対象】1989 年 1 月から新潟大学附属病院胸部外科で大動脈弁置換術 (AVR) が施行された症例のうち、術前に大動脈弁正面視断面でシネモードが施行された大動脈弁狭窄症 10 例である。また、撮像条件設定のため 9 例の正常ボランティアにおいても同様なシネモード撮像をして検討に用いた。

【方法】まず SE 法冠状断像を撮像し、無冠洞と左冠洞が同一断面において描出される画像を選択し、各々のバルサルバ洞の中央を通る撮像面 (大動脈正面視断面) を設定し、シネモード法 (FLASH: TR=RR 間隔, TE=15 msec, FA=30°, SL=6 msec) で撮像した。大動脈弁の評価としては、大動脈弁尖の石灰化・可動性ならびに交連部の石灰化・癒合について、MRI 所見と手術所見とを比較した。また、正常ボランティアにおいては最大開放時の断面積などを測定した。

【結果】大動脈弁狭窄症 10 例全例において、大動脈弁正面視シネモード撮像により各弁尖は良好に描出された。大動脈弁尖及び交連部の石灰化、狭窄弁口部を通過するジェット血流は無信号として描出され、弁尖の石灰化・交連部の石灰化・交連部の癒合・弁の可動性などの項目について MRI 所見はほぼ術中所見と一致していた。

3) 左主幹部病変を有した大動脈炎の 1 例

曾我 悟・三井田 努
小田 弘隆・戸枝 哲郎 (新潟市民病院 循環器内科)
樋熊 紀雄

43 歳女性。既往歴：特記すべきことなし。現病歴：平成 4 年 8 月上旬より労作時胸痛出現し、軽労作にも出現するため 8 月 29 日当科受診する。不安定狭心症疑いにて緊急入院となる。現症：関節、皮膚症状はないが、陰部潰瘍を認めた (眼科検査で異常所見は認めず、針反応陰性)。身長 158 cm, 体重 50 kg. 血圧左上腕 110/60 mmHg, 右 120/64 mmHg. 脈拍 78/分, 整. 第 2 肋間胸骨右縁に to and fro murmur 2/6 を聴取. 他に vascular murmur を聴取せず. 検査所見: WBC 10200 (seg 64%, lym 27%), ESR 21 mm (1 hr), CRP (±), 免疫グロブリン及び補体は正常, ANA (-). 胸部レ線異常なし. EKG にて ST 低下を V₄₋₆ に認めた. 心エコーで AR III° と上行大動脈起始部拡張, 壁運動は diffuse hypokinesis (EDD 48 mm) を認めた. TMT は Bruce II-1' で胸痛を伴う ST 低下を II III aV_rV₄₋₆ で認めた (血圧低下は認めなかった).

心臓カテーテル法: CAG seg 5-90%, AOG AR II°, LVG diffuse hypokinesis (EF 33%, EDV 182 ml).